豊かな体験活動推進事業ブロック交流会研究発表

沖縄県与那原町立与那原東小学校

1　具体的な取り組み（体験活動のさせ方，計画の組み方）

(1)　研究主題　－副題－

「生きる力を育む学習指導の工夫」　－体験活動の充実を通して－

(2)　主題設定の理由

本校のある与那原町は，沖縄本島東南部の中城湾に面し，県都那覇市と中南部を結ぶ交通の要所として立地している。那覇市のベッドタウンとしてマリンタウンプロジェクトにより埋め立て事業が進められ，新たな町づくりも行われている。また，およそ四百年の歴史を誇る「大綱曳き」,「当添ハーリー」，板良敷や上与那原の「獅子舞」などが伝統行事として受け継がれている。町内には，琉球国王の拝所であった「親川」,「石獅子」等，多くの拝所・旧跡があり，「天然のひじき」,「与那原そば」，首里城正殿にも使われている「赤瓦」等の産業が有名である。

児童は，「素直で明るく活動的である」「調べ学習に意欲的に取り組む」という長所がある反面，自から問題意識を持って物事を進めたり，自分の考えを持って発表したりまとめたりすること等が苦手である。また，子どもたちの生活の中にゲーム機等が入ることにより，自然体験や社会体験等が少なくなった等の課題もある。

これらの地域特性や児童の実態を考慮し，本校では，昨年度まで「生きる力」を育成するために，地域素材を積極的に活用することに取り組んできた。その中で「児童の興味・関心・意欲などの心情面の動機を高めていく学習活動の工夫」「体験的・問題解決的な学習過程を重視することで，自ら問題を発見し，追究し，自分なりに解決し，まとめていこうとする態度や技能の育成」について研究を深めてきた。

今年度は，昨年度までの研究の成果をふまえ「体験活動」を充実させることを通して研究主題に迫ることを考えた。そこで「生きる力」を育むために，総合的な学習の時間，各教科，道徳，特別活動において，地域素材を教材化し，子どもたちが実際に見たり，聞いたり，触れたり，作ったり，調べたりすることができる体験活動を重視した学習を展開することにした。問題解決的な学習過程の中に，自然体験活動や社会体験活動を意図的・計画的に取り入れることで，「子どもたちが学習活動を楽しむこと」「体験を通して得た知識や技能は、表現活動にも自信を持って生かすこと」ができるだろうと考えている。このようにして，体験活動を取り入れることで子どもたちの「生きる力」を育むことができるであろうと考え，本主題を設定した。

(3)　体験活動を取り組むために

地域素材・人材を活用した体験活動を，授業に組み入れるために，体験活動マトリックスを作成し，体験活動を軸に総合的な学習の時間，道徳，特別活動，各教科の関連を図った。その構造を，年間指導計画の中に位置づけることで，年間の見通しがつくようにした。

体験活動をさせる上で,「教師はどのようなことを子どもに感じ取ってほしいのか」「どんな力を育てたいのか」を明確にすることが重要だと考え，全職員で確認し，その整理をしている。１・２年生は生活科を中心に，３～６年生は総合的な学習の時間を中心に体験活動に取り組み，各教科では問題解決的な学習の中で、一連の学習として体験活動が生かせるようにしている。

＜体験活動マトリックス　記入例＞

第　４　学年

めざす子ども像	・自ら学び続け、自分のおもいを表現する子 ・思いやりの心をもち、様々なかかわりを大切にする子
体験活動で子どもに育てたい力	①感性を生かし、対象に積極的にかかわる力 ②なぜ？を発見し、問いをもつ力 ③実感をともない、問いを主体的に解決しようとする力 ④地域や人とかかわり、共感する力 ⑤共感したことから、創りだす力 ⑥自分の行動を振り返り、生き方にいかす力

学期	月	段階	総合的な学習の時間	体験活動（　　）時数 ○総合とのかかわり ●総合以外とのかかわり	道徳	特別活動	各教科
1学期	4月 5月 6月 7月	ふれる つかむ	○オリエンテーション ○ビデオを見よう 「視覚障害者とともに」 ○アイマスク体験をしよう ○点字に親しもう ○障害を持つ人と交流会を聞こう ○車いす体験をしよう ○日の出園を見学しよう ○学習課題をつくろう ○学習計画を立てよう ○学習計画をみんなに知らせよう	●ヘチマ園の土作り、種植え（2） ○アイマスク体験（2） ○点字体験（2） ○交流会をし、手話を習おう（2） ●浄水場見学（2） ○車いす体験（3） ○老人ホーム（日の出園）見学（2）	「いつかＶゴール」 「前へ進もう～車いすでサッカー監督を目指す～」 「真心を込めて」 「だがしやのおばあさん」	思いやりのある言葉遣い	理科「植物を育てよう」 社会「健康なくらしと町づくり」 国語「お元気ですか」・手紙をかこう
2学期	9月 10月 11月 12月	追究する まとめる	○グループで課題解決に向けての追究をしよう ○老人ﾎｰﾑでの交流会をしよう ○中間発表会の準備をしよう ○中間発表会をしよう ○グループでもっと調べよう ○調べたことをまとめよう	●ｻﾄｳｷﾋﾞを植えよう（2） ●清掃工場を見学しよう（4） ○老人ホームとの交流会（4） ○地域に出て、調べ学習をしよう（4） ●伝統工芸品作りをしよう（6） ○地域に出て、調べ学習をしよう（4） ●ｻﾄｳｷﾋﾞの手入れをしよう（1）	「徳べざくら」 「きれいになった公園」 「危険です、ガラスが入っています」 「仕事の楽しさ」	図書館の利用 図鑑の使い方 日の出園のお年寄りに年賀状をだそう	社会「ごみはどこへ」 社会「郷土の発展につくした人々」 国語「グラフをもとに」 音楽「いい音選んで」 国語「調べたことをみんなに知らせよう」
3学期	1月 2月 3月	発表する 広げる	○発表会の準備をしよう ○発表会をしよう ○お世話になった人に手紙を書こう ○日の出園のお年寄りと交流しよう ○これまでの活動を振り返ろう	●サトウキビ刈入れ体験（4） ●黒糖作り（4） ○老人ホームとの交流会（2）	「雪かき」 「青銅のライオン」		国語「手と心で読む」 社会「伝統工芸とともに」 図工「身近な材料を使って作りたいものを作る」

２　実践事例

(1)第４学年実践：総合的な学習を中心に,「福祉」をテーマとして。

地域にある福祉施設を利用して学習を進めた。体験活動としては，アイマスク，車いす，点字等の体験及び福祉施設との交流学習も実施している。自然体験学習として、ヘチマの栽培やサトウキビの栽培・収穫から黒糖作りまでを実施している。

アイマスク体験

疑似体験

車いす体験

障害のある方との交流

黒砂糖作り体験

サトウキビ刈り取り体験

サトウキビ絞り体験

(2)　他の学年の実践

①　第１・２学年実践：生活科を中心に，幼・１・２年での「東っ子まつり」において。

与那原に伝わる四百年の伝統をもつ大綱曳きを，自分たちで再現をした。体験活動としては，大綱や旗頭をつくり，金鼓隊の鐘の叩き方を習い，祭としての活動がある。

②　第３学年実践：総合的な学習を中心に，「地域」をテーマとして。

与那原町を素材として調べた。体験活動としては，導入として漁港，ひじき工場，瓦工場，木材工場，綱曳き資料館，文化財等の町内探検、雨乞森から見える与那原町の観察を行った。

③　第５学年実践：総合的な学習を中心に，「環境」をテーマとして。

与那原町の環境を視点として、調査を全県に拡大した。体験活動として，海岸散策，海岸清掃，雨乞森観察，自然学習（宿泊学習）を行った。環境を考える学習素材として，ケナフ栽培も行っている。

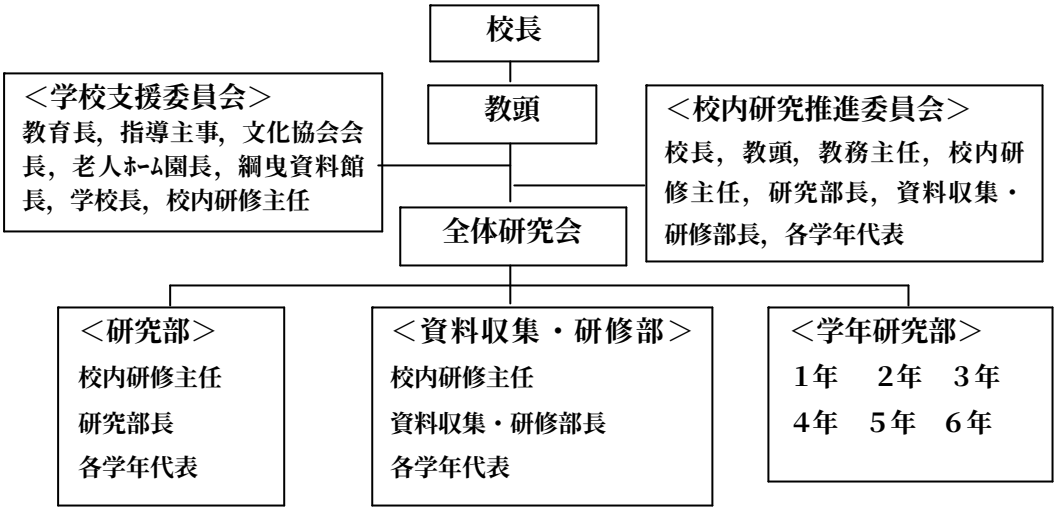
④　第６学年実践：総合的な学習を中心に，「平和」をテーマとして。

平和の体験活動として，アブチラガマ（自然洞穴の避難壕）や沖縄平和資料館での追体験を実施するとともに、体験者の講話を聞くことを通して平和の尊さについて学習を行った。

３　学校支援委員会の組織・運営のあり方

(1)　研究組織

学校支援委員会では，体験活動を行うための学校側の要望や課題解決に向けてどのようなことを協力すればよいかを主として協議している。人材や施設の紹介，地域における子どもたちの活動の様子，学校側への要望等についても話し合っている。町の「豊かな体験活動推進地域協議会」でも，町内３校の学校側と商工会側との情報交換が行われ課題や要望等を出し合っている。



(2)　内　容

学校支援委員会では，学校側から出された協力依頼として，次の事項がある。

①　伝統行事や文化財の説明者や手話講師及び自然体験活動や標本づくりの講師の確保。

②　学校のホームページを立ち上げ，更新ができる方（指導も含め）の確保。

③　校外学習に随行できる人材確保。

④　町在住の外国籍の方で、教育ボランティアの出来る方の紹介。

⑤　学校や施設等との事前打ち合わせ（学校側の趣旨説明や要望）の機会の設定。

また，各事業所から学校側への要望として、次の事項がある。

①　「なぜ職場体験学習をするのか」「なぜ，体験活動をするのか」という学校からの説明が不十分な所がある。

②　どんな目的で触れ合うか，活動するのかを意識させて触れ合わせて欲しい。目的意識が感じられない子どもたちがおり，受け入れる側として困る。

③　子どもたちからの質問から，子どもにも分かるパンフを作成する必要を感じている。

④　町役場への子どもたちの訪問は、教育委員会を窓口にして、事前に調整をした方がよい。

学校支援委員会のこれからの役割として，各事業所との連携，学校ボランティアの人材の確保・協力の便宜を図ったり，与那原町でどのような体験活動ができるのか（場と人材）の提言をしていただきたいと考えている。

4　取り組みの成果と課題

(1)　成　果

①　子どもたちが自主的に取り組むことができる学習課題を見い出し，追究意欲の高まりが見られた。

②　教師は，マトリックスを作成したことでどの時期にどのような体験を行うべきか、またどのように学習を組み立てていくのか、見通しをもって指導することができた。

③　体験活動により，子どもたちが生き生きと学習に取り組む積極性を育むことができた。

(2)　課　題

①　子どもたちが体験活動を楽しんで取り組んでいるが，それが他の学習や活動に生かすことができるようにするための工夫をどのようにするか。

②　体験活動をさせる際に安全面の確保を保護者等にお願いをして取り組んだが，子どもの数に対して保護者の数が不足気味である。安心して体験活動できるだけの保護者の協力を得たい。

③　地域の方々の体験活動に対する理解を深め、より一層の協力を得る（支援委員会の協力を含め）とともに、体験活動をより充実させるためにはどのようなことが必要か考えていきたい。